

## 授業の具体的展開例

T C T C T C C C C C T T

T さあ、いちばん初めに話したのは、どのようなことでしたか。  
 C はい。ものの名前でした。  
 T はい。そうですね。では、次は、どのようなことでしたか。  
 C はい。トンボの羽の形をしているという事です。  
 T そうですね。二番目に話したのは、ものの形についてでしたね。先生は、形や大きさなどについて、他にもお話ししましたね。それは、どのようなことでしたか。  
 C はい。もの名前です。  
 T そうでしたね。大事なことを落とさずにしっかりと聞くことができてきましたね。  
 C では、先生がもう一度お話ししますので、今度は、どのようなことを、どのような順序で話するか、気を付けながら聞きましょう。  
 C 〈発表例（教師示範）〉  
 T そうでしたね。大事なことを落とさずにしっかりと聞くことができてきましたね。  
 C 「いつでもとべるん」は、とんぼの羽の形をしています。  
 C とおくにいるおばあちゃんに会いたい、ということですか。  
 C 空をとべる道具です。  
 C かるくて、せなかにくつつけます。  
 C あつたらいいなと思うものは、「いつでもとべるん」という名前です。  
 T 今の先生の話は、どのような話でしたか。聞いて分かったことを話しましょう。  
 T 〈発表例（教師示範）〉

「形や大きさ」「はたらき」など、児童の発言を整理し、つなぎながら、必要な言葉を提示していく。

めあてを変えて、再度、聞かせる。どの児童にも無理なく学習活動に取り組めるように、目標を焦点化することや、繰り返しによる丁寧な指導を大切にしたい。

教師の話（示範）を聞かせる前に、聞くときのめあてをはっきり意識させる。

## 板書例

めあて

はなむじゅんじゅも、はなしかたをかんがえよう。

形や大きさ

とんぼの羽の形  
かるい  
せなかにつける  
小さくたためる

はたらき

空をとべる  
ゆっくり、はやく  
とおくまですぐに

わけ

とおくにいるおばあちゃんに会いたい

みんなのかおを見て  
みんなにきこえるこえ

ゆっくり、くぎって  
口をしっかりとあけて

※1回目の話を聞いて出された内容を、2回目の話を聞いた後に順序を整理し直す。教科書と関連付けた板書にする。

## 「活用」の力を育てるポイント

話の内容を正しく聞き取することは、低学年の児童にとって、難しい課題の一つであるが、様々な場面で活用できる技能として必ず身に付けさせたい力である。教師の示範を教材とした意図的で丁寧な指導により、確実に身に付けられるようにする。

[本時の流れへ](#)

[単元の流れへ](#)

[評価問題](#)

[HOME](#)